



CSR報告書2018

CSR Report 2018

〈ダイジェスト版〉

東洋インキグループの理念

経営哲学

人間尊重の経営

経営理念

私たち東洋インキグループは 世界にひろがる生活文化創造企業を目指します。

- 世界の人びとの豊かさと文化に貢献します。
- 新しい時代の生活の価値を創造します。
- 先端の技術と品質を提供します。

行動指針

- お客様の信頼と満足を高める知恵を提供しよう。
- 多様な個の夢の実現を尊重しよう。
- 地球や社会と共生し、よき市民として活動しよう。
- 株主権を尊重し、株主価値の向上に努め市場の評価を高めよう。

CSR憲章

私たち東洋インキグループは創業以来、モノづくり企業として製品・サービスを通じてお客様・社員の方々・社会を支える皆様に寄与する生活文化を共に創造し、信用と信頼を得ることを最優先に取り組んでまいりました。

今、私たちは、化学製造業を中核とする企業グループとなり、社会に更に大きな影響を及ぼしていることを改めて認識し、あらゆるステークホルダーの方々との良好な関係を、今まで以上に維持・強化することに努めています。改めて自らの活動を分析・評価し、人・社会・経済・環境の切り口からバランスの取れた経営を実践することで、常に有形・無形の価値を生み出し、高め、提供していくことが社会的責任を果たすための重要な課題であると認識しています。

東洋インキグループは、これからもより一層の公正で自由なビジネスを継続させ、未来に向かって持続的成長につながる経営に努めます。
(2005年4月制定) (2018年1月改訂)

CSR行動指針

□ 製品・サービスを通じた「価値」の提供

市場に対する新たな「価値」を創造し、人々の生活の質の向上、文化の発展および地球環境の改善に寄与する製品・サービスを提供することで、お客様とその先にいる消費者に向けて、最高の信頼と満足をお届けするよう努めます。

□ 至誠を追求した事業活動

原料調達から製品販売にいたるすべての事業ステージにおいて、公正かつ適正な取引を行い、誠実を旨とした事業活動に努めます。その活動を通し健全な利益を生み出し、株主をはじめステークホルダーに還元します。

□ 積極的なコミュニケーションと情報開示

様々な企業活動側面において、広く社会とのコミュニケーションを促進し、経営全般の情報を積極的かつ公正に開示します。

□ 社会貢献活動への取り組み

社会的な価値のある生活文化の向上に奉仕すべく、本業を基盤とした社会貢献を行うとともに、地域との共生を目指した良き企業市民としての社会貢献活動を推進・支援します。

□ 地球規模の環境保全の推進

すべての事業活動において環境負荷の低減に尽力します。また地球規模の環境問題を自身が担うべき最大の課題と捉え、その保全・保護に積極的に取り組みます。

□ 快適で自己実現のできる職場環境の醸成

社員一人ひとりの個性と人格を尊重し、自主性と能力を十分発揮できる、働きがいのある、安全な職場環境づくりに努めます。国内・海外を問わず、人権を尊重し、差別のない労働環境を形成していくとともに、児童労働・強制労働など人道に反したことを認めません。

□ コンプライアンスの徹底

国内・海外各国の法令はもちろん、国際条約や地域の社会規範を順守し、高い理性と良心と倫理観に基づいた判断と行動の徹底に努めます。

□ 理想的な企業統治の構築

経営環境の変化やリスク管理に対して、より機動的かつ柔軟に対応できるグループ連峰経営体制を構築し、「社会から求められる企業の姿」を実現できる経営を目指します。

(2005年4月制定)

長期に持続可能な経営の実践を目指す

東洋インキグループと社会のサステナブルグロース(持続的成長)に向けて

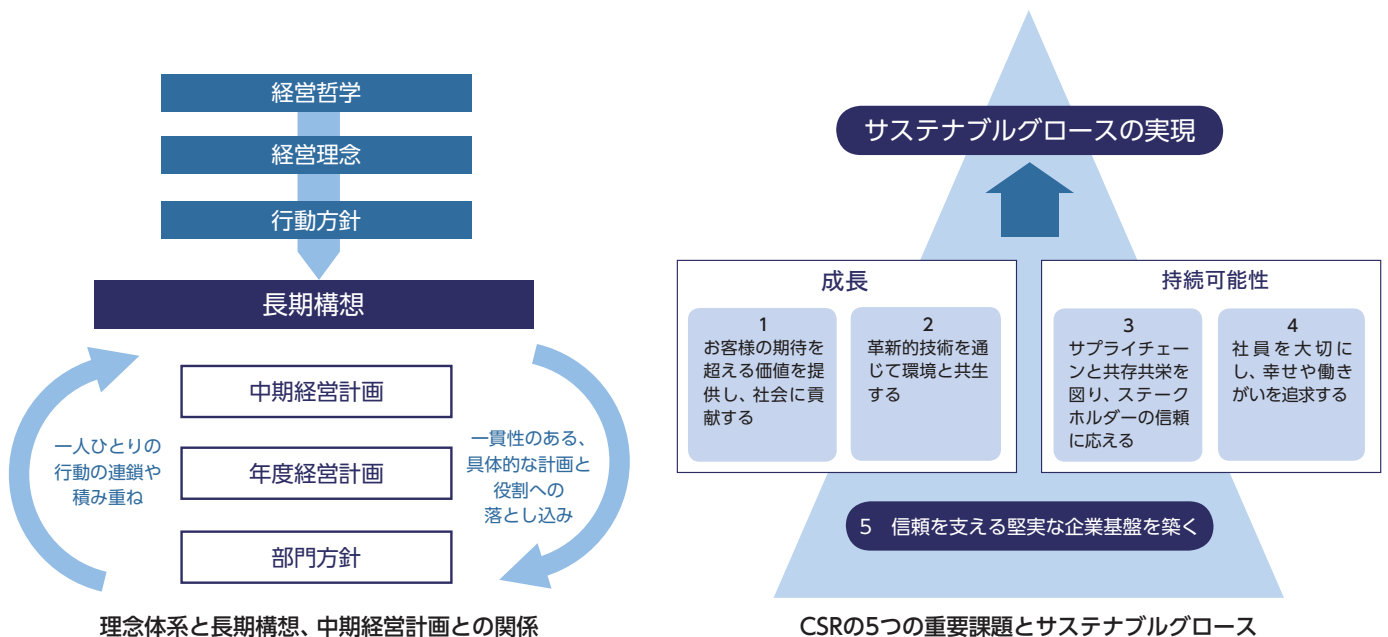
東洋インキグループは、これまでの20年で「TAKE OFF 2007」「SCC2017」という二度の長期構想を掲げてきました。長期構想によって10年先を見通し、目指すべき姿を全員で共有してきたことで、短期的な出来事に惑わされず、また、リーマンショックや東日本大震災などの大きな外的要因も乗り越えて成長することができました。

次の10年の新たな「あるべき姿」については、2年間かけてグループ全体で討議を行い、その集大成として、2027年に向けた企業活動のコンセプトである長期構想「Scientific Innovation Chain 2027 (SIC27)」を定めました。SIC27において、創業200周年に向けて長期に持続可能な経営を実践することが、現代社会における責任であるとの認識に至り、経営哲学、経営理念、行動指針のもと、日々のマネジメント規範という位置付けとして「サステナブルグロース(持続的成長)」というコンセプトを打ち出しました。

SIC27では、東洋インキグループが創業200周年に向かって持続的に成長していくための仕組みを創り上げま

す。具体的には、モノづくり会社として地産地消により地域ごとに最適な製品を提供しグローバルで連携を図るとともに、確保した利益をお客様・社員・社会・株主の皆様にとどのような形で還元していくべきかを考える、高齢化や就労人口の減少などが顕在する環境下、あるべき事業継続体制やバリューチェーンへとフレキシブルに体制を変えていく、そして企業としての長期的な発展を究極目標として、経営の根幹事項の変革に取り組みます。

2018年1月から始まったSIC27の最初の中期経営計画「SIC-I」(2018年度～2020年度)では、2020年度に売上高3,500億円、営業利益280億円を目標としました。印刷インキなどの既存事業では付加価値製品へのシフトや海外展開を加速します。新事業では、パッケージ、モビリティ、メディカル・ヘルスケア、IoT、天然素材、エネルギーの6つを注力すべきドメインと位置付け、将来的にはセンシングデータビジネスや生活余熱を利用するエネルギーの循環利用ソリューションビジネスなど、これまでの素材メーカーの枠にとどまらない事業の展開を進めます。



東洋インキSCホールディングス株式会社
代表取締役社長 兼 グループCEO

北川 克己



事業活動を通じた生活者・生命・地球環境の課題解決に貢献

私たちは、経営理念に「生活文化創造企業」を掲げ活動を行ってきましたが、SIC27では対象を「生活者」から「生命」や「地球環境」にも広げ、社会・生活者課題の解決に能動的に取り組むことで、すべての対象がいきいきと共生する世界の実現に貢献していきたいと考えています。

そのためには、生活者・生命・地球環境の視点で私たちが取り組むべき課題を明確にすることが必要であると考へ、2016年度から東洋インキグループのCSR活動の重要課題(マテリアリティ)の検討を進め、5つの重要課題を策定しました。

今後は、SIC27と同様に中期経営計画や年度経営計画の中に落とし込み、各部門で目標やKPIを策定して、中期経営計画と同様に3年間の単位でPDCAサイクルを回して、CSR活動を推進します。

これまでのCSR報告書では、社会的責任に関する規格である「ISO 26000」の中核主題に基づいてCSR活動を分類して記載しましたが、この「CSR報告書2018」では、策定した5つの重要課題ごとに、その背景と東洋インキグループの考え方、そして「実行項目」と「ありたい姿」を明確にし

て、これまでの活動を報告しました。特に、モノづくり企業として私たちが一番重要と考える重要課題「お客様の期待を超える価値を提供し、社会に貢献する」では、バイオマス製品、リチウムイオン電池、イメージセンサーの展開について報告しています。また、「パリ協定」の発効など、企業の環境への取り組みの重要性に鑑み、環境報告については、新たにPDF版の「環境報告書」を作成し、さらなる内容の充実を図り、ウェブサイトに掲載しました。

持続可能な開発目標(SDGs)では、2030年までに貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを享受できるようにすることを目指す普遍的な行動が呼びかけられています。私たちのCSR活動の重要課題も、SDGsの目標を強く意識して策定しました。SDGs達成には、人と人、組織と組織、国と国との連携が不可欠であると考えています。SIC27の「Chain」に込められた想いも、世界中の仲間との連鎖、そして「時間」の連鎖です。私たちは、一人ひとりの行動の連鎖によって、長期構想とCSRの重要課題の実現に取り組めます。

東洋インキグループの概要

東洋インキグループ

関係会社：国内21社、海外54社
(連結子会社66社、持分法適用会社9社)
連結売上高：2,403億44百万円
(決算期変更のため、2017年度12カ月換算値は
2,801億円)
連結社員数：8,135名

[持株会社]

東洋インキSCホールディングス株式会社

TOYO INK SC HOLDINGS CO., LTD.

本社所在地：〒104-8377 東京都中央区京橋2丁目2-1
創業：1896年(明治29年)1月15日
創立：1907年(明治40年)1月15日
取締役会長：佐久間國雄
代表取締役社長 兼 グループCEO：北川克己
資本金：317億33百万円
社員数：440名
ウェブサイト▶<http://schd.toyoinkgroup.com/>

[中核事業会社]

トヨーカラー株式会社

TOYOCOLOR CO., LTD.

設立：2012年(平成24年)4月1日
代表取締役社長：宮崎修次
資本金：5億円
社員数：570名
ウェブサイト
▶<http://www.toyo-color.com/>

トヨーケム株式会社

TOYOCEM CO., LTD.

設立：2011年(平成23年)4月1日
代表取締役社長：高島 悟
資本金：5億円
社員数：424名
ウェブサイト
▶<http://www.toyo-chem.com/>

東洋インキ株式会社

TOYO INK CO., LTD.

設立：2011年(平成23年)4月1日
代表取締役社長：山崎克己
資本金：5億円
社員数：835名
ウェブサイト
▶<http://www.toyoink.jp/>



■ 東洋ビジュアルソリューションズ株式会社の設立

2018年1月、東洋インキグループの新会社である東洋ビジュアルソリューションズ(TVS)が京橋(本社・営業)、守山製造所(生産・技術)、富士(技術)の3拠点で事業活動を開始しました。TVSはトヨーカラー(株)の表示材料関連事業を吸収分割により継承し、テレビ、パソコン、スマートフォンなどのパネルアプリケーションと、市場が拡大しているイメージセンサー材料関連部材に用いられるカラーレジストインキおよびその中間体であるカラーペースト、カラーフィルタ用顔料の3種類の製品の事業を担います。

新しい長期構想がスタートする2018年、「For a Vibrant World」という東洋インキグループの提供する価値を羅針盤に、私たち表示材料関連事業は「Visual Solutions」という船で、新しい海原への航海に挑みます。

これからは素材事業に加え、ディスプレイ、センサー関連市場へ、ICT社会実現へのさまざまなビジュアルソリューションの提供を通じ、「華やかでわくわくする未来」を目指し、いきいきと共生できる世界の実現に貢献することを目指して活動してまいります。

代表取締役社長 田村俊和



事業セグメント

東洋インキグループの事業活動は、「色材・機能材関連事業」「ポリマー・塗加工関連事業」「パッケージ関連事業」「印刷・情報関連事業」の4つのセグメントで構成されています。

色材・機能材関連事業は、中核事業会社であるトーヨーカラー株式会社を中心に、グループ各社で取り組んでいます。

また、ポリマー・塗加工関連事業は、同じく中核事業会社であるトーヨーケム株式会社が、

パッケージおよび印刷・情報関連事業は、東洋インキ株式会社を中心となって、グループ各社で展開しています。

色材・機能材関連事業

- 汎用顔料 ●高機能顔料 ●顔料分散体 ●プラスチック着色剤
- 記録材塗料 ●液晶ディスプレイ用カラーフィルタ材料

2017年度売上高構成比… **26%**

売上高…………… **63,385**百万円

営業利益…………… **5,322**百万円

代表的なブランド

- Lioplax®
Lioplax®は、お客様のニーズに応じたさまざまな色彩や機能性を付与することができるプラスチック着色剤です。
- LIOACCUM®
LIOACCUM®は、トーヨーカラーが販売展開するリチウムイオン電池電極用材料です。
- LIONOL (有機顔料)
有機顔料は、印刷インキ、塗料、プラスチックの着色だけでなく、化粧品、カラーコピー用トナー、インクジェットプリンタ用インキなど色彩を必要とするさまざまな用途に用いられています。
- LIOCOLOR (顔料分散体)
顔料製造で培われた独自の分散技術により、透明性、鮮明性や各種耐性の高い顔料分散体を提供しています。

ポリマー・塗加工関連事業

- 塗工材料 ●粘接着剤 ●ラミネート接着剤 ●ホットメルト接着剤
- 樹脂 ●製缶塗料 ●天然材料

2017年度売上高構成比… **22%**

売上高…………… **52,028**百万円

営業利益…………… **5,868**百万円

代表的なブランド

- フィニッシュェス®
フィニッシュェス®は、各種飲料・食品などの内容物や、缶の表面を傷などから保護する目的で、スチール缶やアルミ缶の内面・外面に塗工されている製缶塗料です。
- オリバイン®
オリバイン®は、ラベル用途や建材・家電などの工業分野やエレクトロニクス分野に幅広く用いられる粘着剤です。
- ダイナカル®
ダイナカル®は、色材と粘着剤を組み合わせた“貼る塗料”ともいわれるマーキングフィルムです。
- ダブルフェース®
両面テープ ダブルフェース®は、一般工業用だけでなく印刷・電子部品・自動車・建材などさまざまなフィールドで使用されています。

パッケージ関連事業

- グラビアインキ ●フレキシオンキ ●スクリーンインキ
- グラビア溶剤 ●グラビア機器・製版

2017年度売上高構成比… **23%**

売上高…………… **55,640**百万円

営業利益…………… **2,096**百万円

代表的なブランド

- リオアルファ®
ノントルエン・ノンMEK型高性能汎用ラミネートインキで、欧州規制(スイス条例)に準拠した食品包装を中心とした「軟包装・ラミネート加工分野」で使用されています。
- アクワエコール®
ノンポイル用途からボイル、レトルト用途まで幅広く使用できるラミネート水性グラビアインキです。
- アクワリオナ®
軟包装パッケージ向けの水性ラミネート用フレキシオンキです。
- LPバイオ
植物由来原料を使用し、欧州規制(スイス条例)に準拠した、高い安全性を備えたノントルエン・ノンMEK型ラミネート水性フレキシオンキです。

印刷・情報関連事業

- オフセットインキ(オフ輪・枚葉インキ) ●UV(紫外線)硬化型インキ
- 新聞インキ ●金属インキ ●インクジェットインキ ●印刷材料および機器

2017年度売上高構成比… **29%**

売上高…………… **69,011**百万円

営業利益…………… **2,996**百万円

代表的なブランド

- FLASH DRY® LPC EX
省エネルギー対応型高感度UVインキで、「インキグリーンマーク(igマーク)」における最高基準「ig★★★」を取得しています。
- WEB DRY® レオエックス® EZ
植物由来原料を使用し、インキ交換をすることなく低級紙からコート紙までの幅広い用紙グレードに対応可能なオフ輪インキです。
- TOYO KING NEX® NV
植物由来原料を使用し、あらゆる印刷条件でも使いやすいノンVOC枚葉インキです。
- FLASH DRY® SS ソフトフィールワニス
印刷物に「しっとりとしたソフトな触感」と「上質できめ細やかなマット感」を付与できるUV硬化型インキです。

東洋インキグループネットワーク (2018年1月1日現在)

★: ISO14001認証取得拠点

ヨーロッパ地区

- ★ TOYO INK EUROPE SPECIALTY CHEMICALS S.A.S. (フランス)
- TOYO INK EUROPE FRANCE S.A.S. (フランス)
- TOYO INK EUROPE N.V. (ベルギー)
- TOYO INK EUROPE UK LTD. (イギリス)
- TOYO INK EUROPE DEUTSCHLAND GmbH (ドイツ)
- UAB "TOYO INK EUROPE BALTICA" (リトアニア)
- ★ TOYO PRINTING INKS INC. (トルコ)

トルコにおける新規工業用地の取得および事業拡大

TOYO PRINTING INKS INC. (TPI)は、トルコ・マニサ工業団地に約2万㎡の生産施設を有し、グラビアインキ、フレキソインキ、オフセットインキ、金属インキおよび製缶塗料を生産・販売しています。

東洋インキグループのグローバル戦略では、トルコをハブ拠点とした中東・北アフリカ・中央アジア・東欧地域における事業拡大とグループブランドの確立、また、西欧における事業基盤強化を推進しています。その一環として、TPIの生産能力増強と新事業推進を目的に、現在のマニサ工業団地内に新たに6万2,000㎡の土地を取得しました。2018年にもポリマー製品の工場建設に着手する予定です。



TOYO PRINTING INKS INC.

アジア・オセアニア地区

- ★ TIPPS PTE. LTD. (シンガポール)
- ★ TOYO CHEM SPECIALTY CHEMICAL SDN. BHD. (マレーシア)
- ★ TOYO INK (THAILAND) CO., LTD. (タイ)
- TOYO INK (PHILIPPINES) CO. INC. (フィリピン)
- ★ TOYO INK COMPOUNDS CORP. (フィリピン)
- TOYO INK VIETNAM CO., LTD. (ベトナム)
- ★ TOYO INK COMPOUNDS VIETNAM CO., LTD. (ベトナム)
- PT. TOYO INK INDONESIA (インドネシア)
- TOYO INK INDIA PVT. LTD. (インド)
- HEUBACH TOYO COLOUR PVT. LTD. (インド)
- TOYO INK ARETS INDIA PVT. LTD. (インド)
- TOYO INK (MIDDLE EAST) FZE. (UAE)
- TOYO INK ARETS MIDDLE EAST FZE. (UAE)

中国・東アジア地区

- | | | |
|-------------------------------------|------------------|------------------------|
| 東洋インキSCホールディングス株式会社 (在中国事務所)〈中国〉 | 深圳東洋油墨有限公司〈中国〉 | 東大立化工有限公司〈中国〉 |
| ★ 天津東洋油墨有限公司〈中国〉 | ★ 江門東洋油墨有限公司〈中国〉 | ★ 台湾東洋先端科技股份有限公司〈台湾〉 |
| 上海東洋油墨有限公司〈中国〉 | ★ 珠海東洋色材有限公司〈中国〉 | 東洋インキコリア株式会社〈韓国〉 |
| ★ 上海東洋油墨制造有限公司〈中国〉 | 江蘇東洋仁欣顔料有限公司〈中国〉 | 韓一TOYO株式会社〈韓国〉 |
| 東洋粘着材加工(天津)有限公司〈中国〉 | 成都東洋油墨有限公司〈中国〉 | ★ 三永インキ&ペイント製造株式会社〈韓国〉 |
| 東洋油墨亞洲有限公司〈中国〉 | 四川東洋油墨制造有限公司〈中国〉 | |
| | 東洋油墨極東有限公司〈中国〉 | |

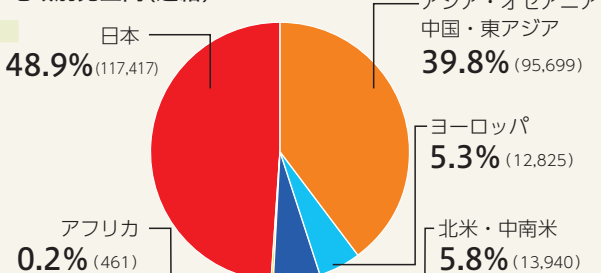
北米・中南米地区

- TOYO INK INTERNATIONAL CORP. 〈アメリカ〉
- TOYO INK AMERICA, LLC. 〈アメリカ〉
- ★ LioChem, INC. 〈アメリカ〉
- TOYO INK ARETS CANADA INC. 〈カナダ〉
- TOYO INK ARETS MEXICO, S.A. de C.V. 〈メキシコ〉
- TOYO INK MEXICO, S.A. de C.V. 〈メキシコ〉
- TOYO INK BRASIL LTDA. 〈ブラジル〉

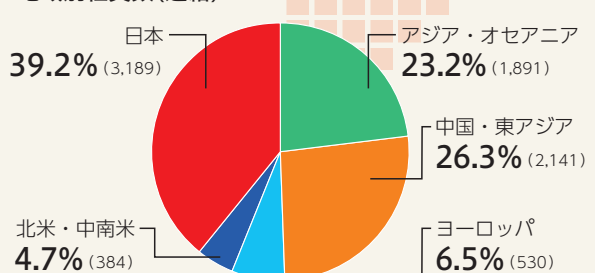
日本

- | | | |
|--|--|--|
| 【東洋インキSCホールディングス株式会社】 ■ マテリアルサイエンスラボ ■ イノベーションラボ ★ ■ ポリマーデザインラボ ■ 解析技術ラボ ■ プロセスイノベーションラボ 【トーヨーカラー株式会社】 ★ ● 富士製造所 ★ ● 茂原工場 ★ ● 岡山工場 ★ ● 川越事業所 【トーヨーケム株式会社】 ★ ● 川越製造所 | ★ ● 西神工場 ★ ● 尼崎工場 【東洋インキ株式会社】 ◆ 中部支社 ◆ 関西支社 ★ ● 埼玉製造所 【関係会社】 ◆ 東洋インキ北海道株式会社 ◆ 東洋インキ東北株式会社 ◆ 東洋インキ中四国株式会社 ◆ 東洋インキ九州株式会社 ▲ ジーエーシティ株式会社 ★ ● 東洋アドレ株式会社 | ▲ 東洋インキエンジニアリング株式会社 ◆ 東洋インキグラフィックス株式会社 ◆ 東洋インキグラフィックス西日本株式会社 ◆ 東洋SCTレーディング株式会社 ★ ● 東洋FPP株式会社 ▲ 東洋ビーネット株式会社 ★ ● 東洋ビジュアルソリューションズ株式会社 ▲ 東洋マネジメントサービス株式会社 ★ ● 東洋モートン株式会社 ★ ● マツイカガク株式会社 ▲ ロジコネット株式会社 |
|--|--|--|
- : 製造 ◆ : 販売 ■ : 研究開発 ▲ : その他(機能会社)

地域別売上高(連結) (単位: 百万円)



地域別社員数(連結) (単位: 名)

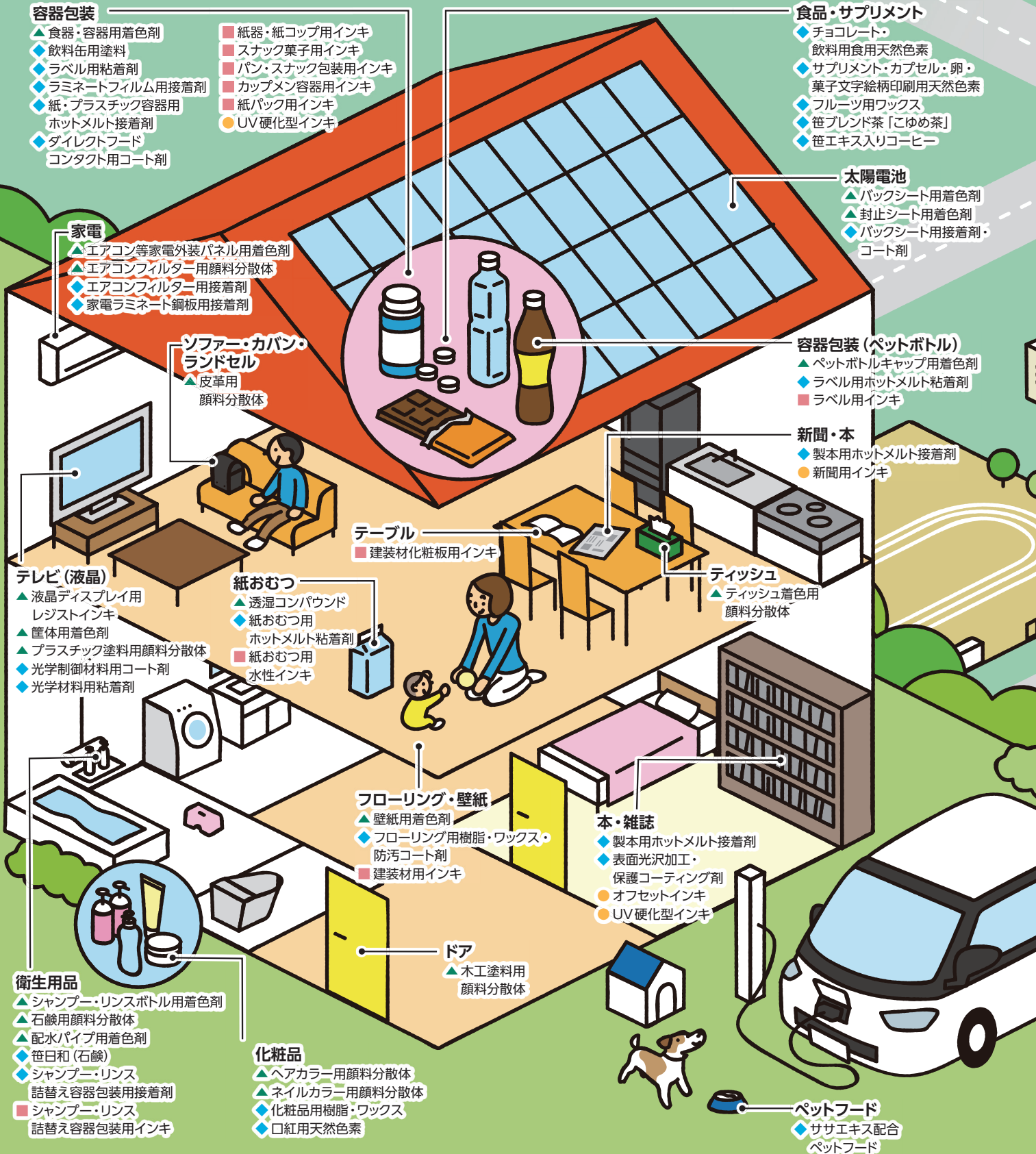


事業と社会とのつながり

私たちが作りだすさまざまな製品は、暮らしの中にあふれています。

それは、普段何気なく使っているもの、見かけるもの、皆様のすぐそばにいつも存在しています——

東洋インキグループは、一世紀を越えて培った技術力をもとに、さらに生活者としての視点に立ったモノやサービスのあり方を見直し、皆様に喜んでいただける優れた製品を提供することで、世界中の多様な人々の暮らしを支えています。



- メディカル**
- ◆ 貼付型医薬品
 - ◆ 検査チップ用テープ
 - ◆ 医療テープ用粘着剤
 - 医薬品包装用印刷インキ

建材

- ◆ コンクリート建築塗料用機能性樹脂
- ◆ 遮熱ウィンドウフィルム

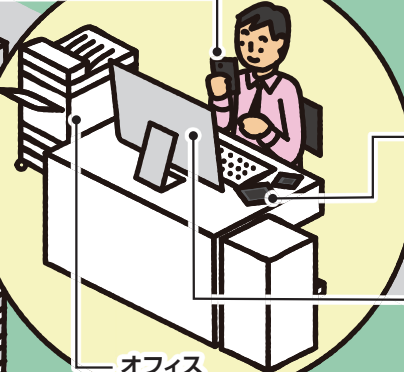
建築塗料

- ▲ 内・外装建築塗料用色材
- ◆ 内・外装建築塗料用樹脂

携帯電話・スマートフォン

- ▲ 有機EL周辺材料
- ▲ SIMカード用着色剤
- ▲ ソルダーレジストインキ用顔料分散体
- ▲ イメージセンサー用カラーレジスト
- ◆ 光学材料用粘着剤・UV粘着剤

- ◆ フレキシブル基板用機能性接着シート
- ◆ 電磁波シールドシート
- ◆ 電子部品用固定テープ
- ◆ 光学制御材料用コート材
- ◆ タッチパネル表面保護用微粘着シート



オフィス

- ▲ OA機器用樹脂コンパウンド
- ▲ トナー用着色剤
- ▲ 塗工紙用顔料分散体
- ▲ トナー用定着剤
- ◆ デスクマット用防汚コート剤

- タブレットPC**
- ▲ 液晶ディスプレイ用レジストインキ
 - ◆ タッチパネル用オーバーコート材

- パソコン（液晶）**
- ▲ 液晶ディスプレイ用レジストインキ

- 道路**
- ▲ 道路塗料用顔料分散体

- 防犯カメラ**
- ▲ イメージセンサー用カラーレジスト

- 看板（バス）**
- ◆ 車両マーキング用フィルム

- のぼり旗・垂れ幕**
- ▲ 捺染用顔料分散体

- 看板**
- ◆ 看板用マーキングフィルム
 - 印刷看板用インクジェットインキ

農業

- ▲ 農業用資材・フィルム用着色剤
- ◆ 農業遅効剤用ポリマー

- 電線**
- ▲ 電線用着色剤

- 木の柵**
- ▲ 木工塗料用顔料分散体

- Tシャツ**
- ▲ 捺染用分散体

自動車

- ▲ 自動車内・外装用色材
- ▲ リチウムイオン電池用機能性分散体
- ▲ イメージセンサー用カラーレジスト
- ◆ リチウムイオン電池用バインダー樹脂
- ◆ 内・外装用装飾シート
- ◆ 断熱材・防音材・遮光シート・防振材用粘着剤
- ◆ フロアマット用ホットメルト粘着剤
- ◆ 内装シート仮止め用ホットメルト粘着剤
- ◆ エンジン部品鑄造用ワックス

- 飼料**
- ◆ 牛・豚・鶏飼料用ササエキス

経営戦略とCSR

2018年、東洋インキグループは長期構想SIC27で掲げた「ありたい姿」の実現のため、その具現化構想に基づいて中期経営計画SIC-Iを始動させました。

「ありたい姿」を達成するために必要な変革要素のうち、そのほとんどをこの3年間で挑戦・着手するとともに、変革や挑戦の前向きなPDCAサイクルを回して継続的な改善を図ります。

CSR活動については、2017年度にこれまでの活動を見直し、CSRの重要課題を策定したところです。

今後、中期経営計画と連動しながら、CSR活動が生み出す提供価値を経営計画のPDCAサイクルの指標とすることで、CSR活動の組織的かつ計画的な推進と経営戦略へのさらなる統合を図っていきます。

SIC27

長期構想

Scientific Innovation

2018年1月～2020年12月

SIC-I

経営戦略

挑戦を繰り返す

2021年1月～2023年12月

SIC-II

新しい成果を
積み重ねる

CSR

新しい重要課題を
グループ全体に拡大し、
重要課題に基づくKPIを設定する

重要課題やKPIを見直して
改善を図る

中期経営計画 SIC-I

さらなる100年レンジでの持続的成長の礎を創り上げる期間と位置付け、変革のための施策を立て続けに打つ。

【最終年度目標】

- 売上高：3,500億円
- 営業利益：280億円
- 営業利益率：8.0%
- 海外売上高比率：50%
- ROE：7.2%

①成長に向けた既存事業の 変革と新事業への挑戦

海外拠点の連携・複合化と製品の拡充を進め、多彩なビジネス展開でグローバル市場での成長力を高めていきます。また、コア素材(顔料・樹脂)とコア技術(合成・分散・成膜)の融合による新規素材の開発で新たな価値を創出し、新市場・新規エリアでの事業拡大、新事業の創出・確立に挑戦していきます。



Chain 2027

2024年1月～2026年12月

SIC-Ⅲ

持続可能な企業体質を
創り上げる

社会価値を提供しつづける
企業体質となる

SIC-Iの3つの方針

② 持続可能性向上に向けた モノづくり革新の推進

これまで行ってきたモノづくり革新の取り組み(グローバルモノづくりネットワークの構築、環境配慮型モノづくり体制の構築、グローバル化学物質管理・貿易管理体制の整備など)からさらに発展し、生活者・生命・地球環境の持続可能性向上への貢献と、企業グループとしての収益確保を両立できるモノづくり革新に取り組んでいきます。

③ 経営基盤の刷新

SIC-Iで取り組んでいく諸々の事業施策を下支えすべく、業務システムのグローバル統合推進や、変革に備えた人材採用と人事制度刷新などを進めるとともに、経営と一体となったCSR活動を推進し、イノベーションを立て続けに創出するための経営基盤を強化します。

社会に提供する価値



すべての人々が
安全・安心に暮らせる社会



気候変動の緩和



人々の生活の質の向上



人権を尊重した経営

CSRの重要課題の策定

東洋インキグループのCSRの重要課題

重要課題と目指す姿、実行項目

| 重要課題 | 目指す姿 | バウンダリー | SDGsの関連目標 | 実行項目 |
|--|--|---------------------|--|--|
| 重要課題 1 お客様の期待を超える価値を提供し、社会に貢献する ⇒P.14～ | お客様の期待を超える独創的な製品・サービスを通じて、社会のイノベーションや課題解決に資する価値を提供している。これを通じて広くステークホルダーから信頼を得ると同時に、持続可能な社会づくりに貢献している。 | お客様、社会 |     | 1. 「Life」「Communication」「Sustainability」の方向性での生活文化創造 2. 安全な製品・サービスの提供を通じたお客様の安心の実現 3. 高いお客様満足度の達成 4. 圧倒的に高い品質の保証 |
| 重要課題 2 革新的技術を通じて環境と共生する ⇒P.20～ | 革新的な環境技術により、製品・サービスの両面で社会のリーディングカンパニーになっている。また、川上から川下に及び事業全体での取り組みを通じて、社会と環境との調和や社会の持続可能性向上に大きく貢献している。 | 環境 |       | 5. 環境負荷を低減する革新的な技術・製品・サービスの開発と普及 6. 気候変動問題の解決や対応に向けた取り組み 7. 化学物質の適切な管理 8. 環境マネジメントの堅実な推進 |
| 重要課題 3 サプライチェーンと共存共栄を図り、ステークホルダーの信頼に応える ⇒P.22 | 対等な立場からサプライチェーンを尊重し、互いを刺激しあうことを通じて、共存共栄に向けた確固たる信頼関係が築かれている。また、こうした関係をベースとして、互いに協調しながらさらなる挑戦を続けている。 | サプライチェーン |   | 9. 協働を通じたサプライチェーンとの共存共栄 10. あらゆるステークホルダーの人権尊重 |
| 重要課題 4 社員を大切に、幸せや働きがいを追求する ⇒P.23 | それぞれの社員の人格や多様性が尊重され、社員が自ら働きがいや自己実現を追求する風土が確立している。また、風通しがよく家族的な職場環境が、国内外でイノベーションを創出するベースとなっている。 | 社員 |    | 11. 社員の満足につながる労働安全衛生の徹底と健康経営の推進 12. 組織の活性化に向けたダイバーシティ推進 13. グローバルな視野・能力を持つ人材の育成 |
| 重要課題 5 信頼を支える堅実な企業基盤を築く ⇒P.24 | コンプライアンスやコミュニケーションなどの実践を通じて、ステークホルダーの信頼を支える堅実な企業基盤が確立している。また、この基盤が、歴史を継承しながら200周年まで会社が存続するための確かな礎となっている。 | (間接的に) あらゆるステークホルダー |   | 14. コンプライアンスの徹底 15. 腐敗・汚職の撲滅 16. 確実なリスクマネジメント、災害対応の推進 17. 適時・適切かつ積極的な情報開示とステークホルダー・コミュニケーションの強化 18. 事業を通じた地域社会発展への貢献 19. 地域が抱える課題解決への貢献 |

■ SDGsへの取り組み

「持続可能な開発目標(SDGs)」とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標で、政府のみならず、企業や市民社会など、地球上のすべての人を対象とした共通目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標、169のターゲットから構成され、「誰も取り残されない」世界の実現を目指しています。

東洋インキグループは、特に事業活動と関わりの深い12の目標(P.19の表に記載)について、CSRの重要課題と関連付けて取り組んでいきます。



■ ステークホルダーとのかかわり

東洋インキグループの事業活動は、多様なステークホルダーとのかかわりの中で行われています。私たちはステークホルダーへの責任を明確にし、さまざまなコミュニケーション活動を実施することで、社会課題を認識し、その解決に向けてさまざまな施策に取り組んでいます。これにより、信頼関係や協業関係を構築して、CSR活動の充実に努めていきます。

| 東洋インキグループのステークホルダー | 東洋インキグループの責任 | 主な対話方法 |
|---|---|--|
| お客様 「色材・機能材関連事業」「ポリマー・塗加工関連事業」「パッケージ関連事業」「印刷・情報関連事業」の4つのセグメントでさまざまな製品・サービスを提供しています。 | <ul style="list-style-type: none"> 安全・安心で価値ある製品・サービスの提供 お客様満足(CS)の向上 製品に関する正確・適切な情報提供 お客様情報の適切な管理 | <ul style="list-style-type: none"> 営業部門におけるお客様対応 お客様窓口での対応 ウェブサイトでの情報開示 展示会、プライベートショウなどの開催 |
| 株主・投資家の皆様 発行済株式総数は約6,060万株(株式併合後の総数)、株主総数は約1万2,000人です。行動指針の一つに「株主権を尊重し、株主価値の向上に努め市場の評価を高めよう」としています。 | <ul style="list-style-type: none"> 企業価値の維持・向上 利益の適正な還元 企業情報の適時・適切な開示 社会的責任投資(SRI)への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 株主総会 決算説明会 個別ミーティング ウェブサイトでの情報発信 IRツールによる情報開示(「Fact Book」、 「株主のみなさまへ」) SRIアンケートへの対応 |
| 社員 会社数は75社。社員は約8,100名で、国内約3,200名、海外は約4,900名です。 | <ul style="list-style-type: none"> 人権・多様性の尊重 人材の活用と育成 多様な人材が活躍できる職場づくり 労働安全衛生と健康への配慮 | <ul style="list-style-type: none"> 職場でのコミュニケーション 労使協議会 社内報、社内イントラネット 内部通報制度 |
| お取引先 主要なお取引先は約300社です。 | <ul style="list-style-type: none"> 公平・公正な取引 CSR調達のための支援・協働 | <ul style="list-style-type: none"> 日常の調達活動 工場視察 アンケートなどの各種調査の実施 |
| 行政 事業展開する地域の政府・自治体や、事業展開上関係する行政機関です。 | <ul style="list-style-type: none"> 法規制・行政指導などの順守 税金の納付 社会的な課題解決に向けた政策への協力 | <ul style="list-style-type: none"> 行政主催のセミナー、イベントへの参加・協力 業界団体を通じたコミュニケーション 法規制に関連した届出、報告 |
| 地域社会 世界約20カ国で事業活動を行っています。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の発展への貢献 地域の文化や慣習の尊重 事故災害の防止、環境保全 環境などの問題解決に向けた協力・連携 | <ul style="list-style-type: none"> 地域主催の活動への参加 リスクコミュニケーション活動 工場見学、住民説明会 インターンシップの受け入れ |
| 地球環境 生産活動において原材料、エネルギー、水などを使用し、CO ₂ 、化学物質、排水、廃棄物などにより環境に負荷を与えています。 | <ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス排出量の削減 省エネ、リサイクルの推進 廃棄物削減、化学物質の排出量削減 水環境の保全、生物多様性の保全 | <ul style="list-style-type: none"> 大学などの研究機関との共同研究 環境教育の実施 CSR報告書などの発行 環境関連アンケートへの対応 |

お客様の期待を超える価値を提供し、社会に貢献する



取り組みの背景

グローバル化が進み、技術がかつてない勢いで進歩している現在、IoT、ビッグデータ、AIなどの発展により、私たちの暮らしや産業、ビジネスのあり方も想像を超える速さで変化しています。これらの技術革新をベースに、社会経済活動が再設計され、新たなデジタル社会が展開されつつあります。その一方、人々の環境や健康に関する課題解決に向けた関心もいっそうの高まりを見せています。その中で企業には、ビジネスを通じてお客様や社会に新たな価値を生み出し、社会課題の解決と持続的な企業価値の向上を図ることが求められています。



●基本的な考え方

お客様の期待を超え、社会に貢献する価値を提供するには、社会・生活者が抱える課題を理解し、その解決に向けて効果的なソリューションを提案していくことが重要です。そのためには、これまで培ってきた独自技術の可能性を追求するとともに、技術基盤の拡大を図り、新たな領域の技術も獲得して、社会課題の解決に寄与する新たな製品・サービスへと進化させることが不可欠と考えています。

東洋インキグループは、「Life」「Communication」「Sustainability」を、これからの生活文化創造の方向性として掲げ、これに基づく11のドメインでの事業展開を通じて社会課題の解決に貢献します。また、製品情報の提供と品質管理を徹底し、さまざまなコミュニケーション活動を通じて、お客様に安全・安心を提供します。

| 実行項目 | ありたい姿 |
|---|---|
| 「Life」「Communication」「Sustainability」の方向性での生活文化創造 | 11のドメインへの事業展開により社会・生活者課題の革新的な解決に取り組む。 |
| 安全な製品・サービスの提供を通じたお客様の安心の実現 | お客様に対する安全な製品の提供を絶対の前提としながら、コミュニケーションを通じてお客様に安心を感じていただく。 |
| 高いお客様満足度の達成 | 製品・サービス、コミュニケーションほか、あらゆる接点を通じてお客様の継続的かつ高い満足度を達成する。 |
| 圧倒的に高い品質の保証 | お客様のニーズを汲みながら、競合と比較して圧倒的に優る品質を実現することで、お客様に対する訴求を行う。 |

■ 事業ドメインの領域における革新

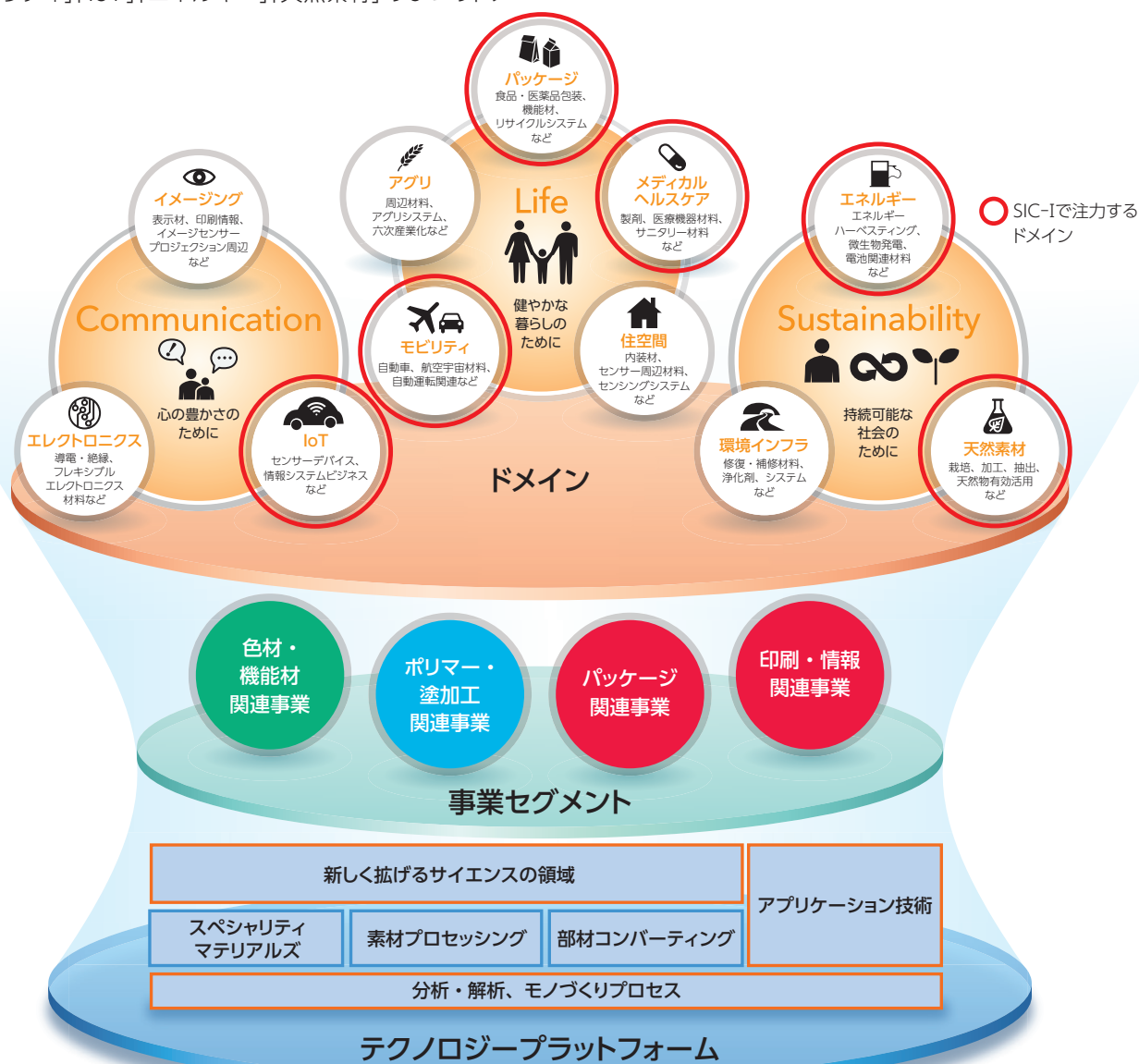
東洋インキグループは、生活者や生命、地球環境に対してどのように貢献していくのか、その方向性を示す羅針盤として「ドメイン」を設定しています。

長期構想SIC27では、11の領域で戦略的にビジネスを構築していくことで、強靱な事業展開を目指します。

長期構想SIC27では、Life（健やかな暮らし）、Communication（心の豊かさ）、Sustainability（持続可能な社会の実現）の3つの方向性での生活文化創造を目指し、具体的には11のドメインへの事業展開に注力していきます。その中でも、SIC27における最初の中期経営計画となるSIC-Iでは、「パッケージ」「メディカル・ヘルスケア」「モビリティ」「IoT」「エネルギー」「天然素材」の6つのド

メインでの事業展開を積極的に推進します。

東洋インキグループは、それぞれの「事業セグメント」において幅広いドメインに事業を展開しながら、競争力の源泉である「テクノロジープラットフォーム」を洗練させていくことによって、目指す姿に向けた動きを、さらに加速していきます。



□ SIC27において新たに獲得・構築していく枠組み

11のドメインへの事業展開を可能にする基盤である「テクノロジープラットフォーム」を「必要な技術を能動的に強化・獲得していく技術基盤の枠組み」と定義しました。長期構想SIC27では、以下の枠組みを新たに獲得・構築していきます。

- 新しく広げるサイエンスの領域：ケミカルの領域に加え、バイオやアグリ、データサイエンスといった、新しい領域のサイエンスを獲得していく枠組み
- アプリケーション技術：今後新たに開発していくビジネスモデルで求められるプログラミングやシステム設計といった「ソフトの領域」を技術として構築する枠組み
- 分析・解析、モノづくりプロセス：科学的根拠に基づいた情報を、的確に開発やお客様への提案に反映していくための技術的枠組み

東洋インキグループの価値提供

東洋インキグループは気候変動、資源枯渇、情報格差、少子高齢化、自然災害といった社会課題を解決するために各事業セグメントにおいて価値を提供し、持続可能な社会づくりに貢献します。

バイオマスソリューション

再生可能な生物由来の「バイオマス[※]原料」を活かして、CO₂の排出や環境負荷を低減

※再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの

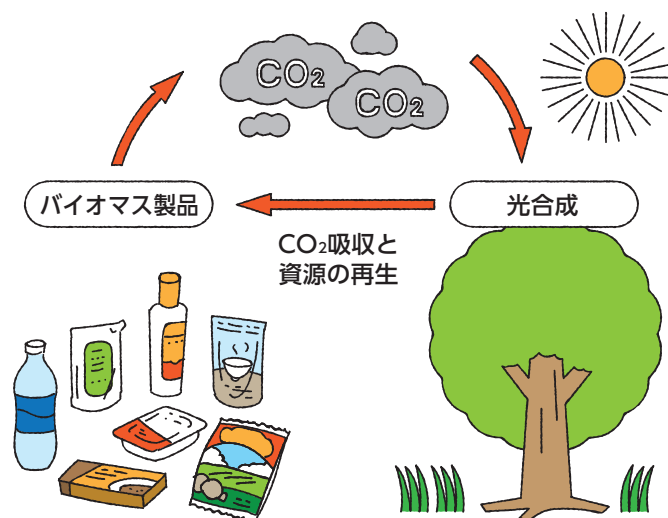
社会課題

日本の温室効果ガス(GHG)排出量は約13億2,300万t[※]で、その90%以上をCO₂が占めています。2015年度のGHG排出量は2013年度比6.0%減で、2030年度までにさらに20%削減する必要があります。

バイオマスは、燃焼するとCO₂が発生しますが、燃料となる植物が生長する際にCO₂を吸収するため、全体で見るとCO₂の量は増加しない「カーボンニュートラル」という特性を持っています。

バイオマスは、バイオマスプラスチックなどの製品にも用いられており、2016年5月に閣議決定された「地球温暖化対策計画」では、バイオマスプラスチックによるGHG削減目標が2020年度72万t、2030年度209万tとされており、バイオマス製品の拡大が求められています。

※環境省「2015年度の温室効果ガス排出量(確報値)」



【東洋インキグループの価値提供】

印刷・包装分野におけるCO₂排出量削減の流れが加速する中、東洋インキは印刷インキのリーディングメーカーとして、グループ一丸となってバイオマス製品群の開発を積極的に推進しています。

オフセット、グラビア、フレキソの各インキに加え、包装関連資材であるラミネート接着剤、ホットメルト接着剤を含んだバイオマス製品を開発し、ソリューションの提案に取り組んでいます。

▶ 関連するドメイン



■ バイオマスソリューションの特徴

1. 客観的評価と事実に基づく情報表示

植物由来原料の使用によるCO₂排出量削減などについて、エビデンスを明らかにすることと客観性担保を重視しています。その手段として、一般社団法人日本有機資源協会認定基準に基づく製品開発を徹底しています。東洋インキが提供する植物由来原料を使用するすべてのバイオマス製品は、同協会認定のバイオスマークを取得済です。



2. 主要な印刷方式を網羅するバイオマス製品群の供給

市場で消費される印刷インキの約70%を占めるオフセット・グラビア・フレキシソの印刷方式のすべてにおいて、バイオマスインキを投入し、暮らしに身近な食品・日用品などの包装や各種印刷物を通じて持続可能な社会の実現に向けた貢献をしています。

包装分野に関しては印刷インキのみに留まらず、ラミネート接着剤やホットメルト粘着剤においても、バイオマス製品をラインナップし、社会課題の解決に貢献しています。



バイオマス製品が使用されている製品(おにぎりのパッケージ)

東洋インキグループのバイオマス製品群

| グラビアインキ | | |
|---|-------------|--------------------|
| ラミネートインキ「LP バイオ」 | 登録番号 160011 | 原料：被子植物の種 |
| 表刷インキ「PANNECO® シリーズ」 | 登録番号 160016 | 原料：綿、パルプ、米ぬか |
| 表刷インキ「リアル® NEX BO シリーズ」 | 登録番号 170003 | 原料：被子植物の種 |
| 表刷インキ「PEK」 | 登録番号 170002 | 原料：綿、パルプ、米ぬか |
| 紙用インキ「UP TOP シリーズ」 | 登録番号 170005 | 原料：綿、パルプ、米ぬか |
| 紙用インキ「エコカラー® HR シリーズ」 | 登録番号 170004 | 原料：綿、パルプ、米ぬか |
| 紙用 OP ニス「MFT8G NT OP ワニス M1」 | 登録番号 170018 | 原料：綿、パルプ、米ぬか |
| ラミネート接着剤 | | |
| 無溶剤型ラミネート用接着剤「ECOAD® EA-N5050&EA-N6050」 | 登録番号 170006 | 原料：被子植物の種 |
| ドライラミネート用接着剤「ECOAD® EA-B3110&EA-B1210」 | 登録番号 170007 | 原料：被子植物の種や実 |
| フレキシソインキ | | |
| 表刷インキ「FB キング X シリーズ」 | 登録番号 170024 | 原料：綿、パルプ |
| 一般紙用インキ「アクワ® PKバイオシリーズ」 | 登録番号 170030 | 原料：被子植物の種 |
| シート段ボール用インキ「アクワ コンテ® K バイオシリーズ」 | 登録番号 170031 | 原料：被子植物の種 |
| ホットメルト粘着剤 | | |
| ホットメルト粘着剤「ラベルメルト® BL-8603KC」 | 登録番号 140014 | 原料：ロジン |
| ホットメルト粘着剤「ラベルメルト® BL-8603C」 | 登録番号 140015 | 原料：ロジン |
| オフセットインキ | | |
| 枚葉インキ「TOYO KING® NEX(NV) シリーズ」 | 登録番号 100013 | 原料：ロジン、再生植物油、米ぬか油他 |
| オフ輪インキ「WEB DRY® レオエックスシリーズ」 | 登録番号 100014 | 原料：ロジン、再生植物油、米ぬか油 |
| UV硬化型インキ「FLASH DRY® HBエコー BIO シリーズ」 | 登録番号 170032 | 原料：植物油他 |

各製品の「登録番号」とは「バイオマス登録番号」のことです。

バイオマス製品群は、日本バイオマス製品推進協議会「バイオマス製品普及推進功績賞」、第27回地球環境大賞「環境大臣賞」を受賞しました。

■ VOICE

バイオマスソリューションでさらなる環境負荷低減を目指します。

東洋インキ(株)はこれまでグラビアやフレキシソといったパッケージ用インキの分野において、環境調和型製品としてノントルエンやノンMEK、水性インキなどの開発に取り組んでまいりました。

さらなる環境対応として、脱石化・天然物由来による循環型社会構築、そしてCO₂削減への貢献をキーワードに開発を成し遂げたのがバイオマス製品群(バイオマスソリューション)です。

他社に先駆けてこれらの製品を上市することで、コンビニエンスストアのプライベートブランドなどで採用され、消費者のお手元にお届けしています。



東洋インキ(株) 服部 篤



リチウムイオン電池用 CNT分散体

高容量による電池のコンパクト化
燃費向上でCO₂排出を低減



社会課題

2017年7月、イギリスとフランスは「2040年以降、化石燃料を原料とするガソリン車、ディーゼル車の販売を認めない」という方針を発表しました。中国では、自動車メーカーに対して電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド車、燃料電池車などの販売を義務化するNEV規制(新エネ

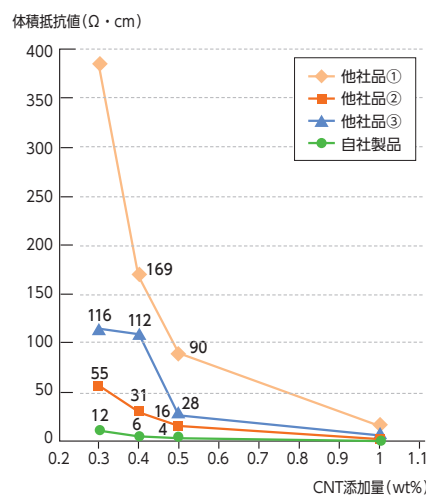
ルギー車規制)が2019年から実施されます。このような動きを受けて、自動車のEV化が進んでいます。

航続距離が短く充電に時間がかかり過ぎるなど現行のEVには課題が多く、高出力でコンパクトな電池が求められています。

【東洋インキグループの価値提供】

リチウムイオン電池(LiB)の軽量で高電圧・大容量という特性から、スマホやノートPCなどの情報関連機器に加え、ハイブリッド車やEVにも搭載されています。

トヨタカラー(株)のLiB用第2世代CNT(カーボンナノチューブ)分散体は、東洋インキグループが長年培ってきた独自の分散技術に加え、分散剤やCNT自体も選定して製品化したものです。他社品に対して50%程度のCNT添加量で同等以下の体積抵抗値となり、その高い導電効率により電池の高容量化に寄与します。また、電極シートとの密着性も向上させることができるため、導電助剤やバインダーの添加量を削減して、よりコンパクトな電気設計が可能です。さらに、高純度のCNTを使用しているため、異物を最大限に抑制して、電池の安全性を向上させます。



VOICE

短い充電で長く走れるEVに貢献します。

リチウムイオン電池向けに開発してきた分散剤と蓄積してきた分散ノウハウからなる第2世代CNT分散体は、少量の添加で高効率な導電パス(電子の通り道)を形成することができます。

今後も改良を重ね、この技術でリチウムイオン電池の課題を解決し、「短い充電で長く走れる」EVの提供に貢献いたします。



トヨタカラー(株)富士製造所
 柁岡友明

▶ 関連するドメイン



イメージセンサー用 オンチップカラーレジスト

ICT社会に向けた イメージセンサー用材料の開発、提供



社会課題

イメージセンサーは、ICT社会のビッグデータ収集に不可欠です。自動車1台に多数搭載され、衝突検知や自動ブレーキシステムにも使用されます。自動運転の実現により、

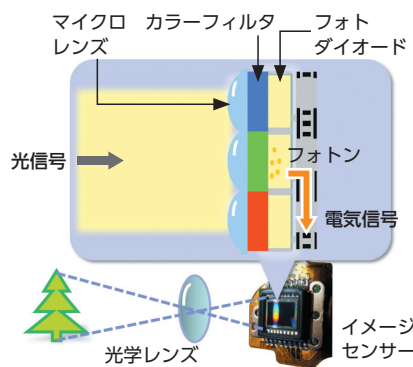
イメージセンサーが社会の基礎インフラになると考えられ、カメラの小型化、高性能化により、カラーフィルタも、より小型で高解像度のものが求められています。



【東洋インキグループの価値提供】

イメージセンサーは、マイクロレンズとカラーフィルタ、フォトダイオードの3層で形成されています。スマートフォンなどに使われているカラーフィルタの場合、1画素当たりのサイズは約 $1\mu\text{m} \times 1\mu\text{m}$ と小さく、カラーフィルタ用のオンチップカラーレジストは、顔料粒子が極めて微細かつ均一に分散していることが求められます。また、監視カメラや内視鏡などイメージセンサーの用途の拡大に伴って、可視光以外にも赤外線や紫外線など、さまざまな波長の光をセンシングする必要があります。

東洋ビジュアルソリューションズ(株)では、独自技術を生かし、ナノレベルの分散を実現しました。また、高い顔料濃度でも安定して分散させるために新たな分散剤を設計し、フィルタの膜厚を薄くすることに成功しました。独自の合成・分散技術により、可視光以外のさまざまな波長の光をセンシングする色材を提供し、イメージセンサーの多機能化にも貢献しています。



VOICE

センサー用材料で暮らしの安全性、利便性を支えます。

私たちは、これまでカラーフィルタ用材料を開発し、ディスプレイに美しい彩りを提供してきました。さらに、ICT社会の進化に向け、自動運転、ロボット、セキュリティ、医療などの幅広い用途に使用されるセンサー用材料の開発を進め、人々の暮らしの安全性や利便性を支え、持続可能な社会に貢献する製品の開発・提供を目指して社員一丸となって取り組んでまいります。



東洋ビジュアルソリューションズ(株)
山崎智己

2

革新的技術を通じて 環境と共生する



取り組みの 背景

温室効果ガスの排出量の増加に起因する気候変動の問題により、集中豪雨や高温などの異常気象が世界各地で頻発しています。このまま有効な温暖化対策に取り組まない場合、世界の平均気温は、21世紀末には約4℃も上昇すると予想されています。

また、2020年までに化学物質の製造と使用による人の健康と環境への悪影響の最小化を目指すWSSD目標を受け、欧州REACH規制、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)、米国TSCA法、中国新化学物質環境管理弁法など、各国で化学物質に関する法規制の強化が図られています。

●基本的な考え方

事業活動は地球の資源に依存していることから、気候変動をはじめとする環境問題への対策はモノづくり企業の必須課題です。環境問題を起因とする事象が私たちの暮らしを脅かすことを認識し、東洋インキグループは地球と共生することを行動指針に掲げ、モノづくりでの省エネルギーを推進するとともに、製品の環境への影響の低減を目的とした「環境調和型製品」の開発・販売を行ってきました。今後も、革新的な環境技術により製品・サービスの両面で持続可能な社会構築をリードする企業を目指します。

また、ステークホルダーの皆様と連携して、気候変動対策に取り組む、環境負荷低減に資する環境マネジメントシステムの構築・維持に努めることで、環境との調和ができる持続可能な社会づくりに貢献していきます。



| 実行項目 | ありたい姿 |
|-------------------------------|---|
| 環境負荷を低減する革新的な技術・製品・サービスの開発と普及 | 低環境負荷にとどまらない、環境と長期的に調和できる革新的な技術・製品・サービスの開発を進め、販売を通じて社会に広く普及させる。 |
| 気候変動問題の解決や対応に向けた取り組み | 一社単独の気候変動対策を超え、協働を通じて広くバリューチェーン全体での気候変動対策を行い、社会の持続可能性に貢献する。 |
| 化学物質の適切な管理 | 関連法規の順守を大前提とし、それを超える自主的な水準での化学物質の適切な管理を遂行し、汚染の最小化を推し進める。 |
| 環境マネジメントの堅実な推進 | あらゆる環境対策の根幹となる環境マネジメントを、社内外に向けた環境意識の啓発とともに堅実に推し進める。 |

■ 新たな環境目標

東洋インキグループは、長期構想SIC27に対応した新たな環境目標の策定を進めています。

東洋インキグループは2009年、先の長期構想「SCC2017」に対応した2017年3月期までの中期環境目標（2017年目標）を制定し、環境負荷の低減などを行ってきました。また、2017年度は、CSR活動方針「SCC-Ⅲ積み残し課題の解決」を踏まえ、2017年目標に基づいて年度目標を設定し活動を行ってきました。

現在、長期構想SIC27に対応した新たな環境目標の策

定を進めています。東洋インキグループの事業が及ぼす影響範囲を考え、環境目標の方向性を「モノづくりでの環境負荷低減」「持続可能な社会を実現させる製品・サービスの提供」「自然・地域との共生」の3項目としています。それぞれの項目について具体的な目標を設定し、重要課題の実行項目に対応したKPIを定めて活動を行います。



※東洋インキグループの環境マネジメントシステムや廃棄物、水資源などを含めた環境負荷の実績、負荷低減に向けた取り組みなどについては、別冊の「環境報告書」(PDF版)に記載しています。

サプライチェーンと共存共栄を図り、ステークホルダーの信頼に応える



取り組みの背景

東洋インキグループは世界約20カ国に75社のグループ会社を抱え、グローバルにビジネスを展開しています。また、事業のグローバル化により、サプライチェーンも拡大し複雑化しています。これに伴い、東洋インキグループの社会的責任も拡大し、サプライチェーンにおける人権や労働、環境などにも配慮する必要があります。

サプライチェーン上で問題が発生した場合、自社の事業への影響は多大なものとなり、リスクの観点からもサプライチェーンマネジメントは必須の課題です。さらに、持続可能な社会への貢献も、サプライチェーンとの共存共栄なくして実現することは困難です。

●基本的な考え方

東洋インキグループは、「原材料購買規程」に基づき「調達基本方針」と「調達先選定基準」を制定し、お取引先との公正な取引に努めています。サプライチェーンも当社の社会的責任の範囲と捉え、さまざまなコミュニケーション活動を展開するとともに、サプライチェーンにおける人権、労働、環境などに配慮した取り組みを推進します。

また、サプライチェーンマネジメントが海外の各拠点でもしっかりと行えるよう、海外赴任者への研修やガイドラインの海外への展開を徹底し、人権の尊重や児童労働・強制労働の禁止などの考えを、海外のグループ会社に浸透を図っていきます。

実行項目

協働を通じたサプライチェーンとの共存共栄

あらゆるステークホルダーの人権尊重

ありたい姿

サプライチェーンを納入者としてではなく理念の実現に向けた協働者として位置づけ、互いを高めあうことで共存共栄を目指す。

事業にかかわるあらゆる人々の立場を尊重し、配慮することにより、気付かないところで人々の人権が損なわれないように努める。

4

社員を大切にし、 幸せや働きがいを追求する



取り組みの 背景

急速かつ多様に变化する社会において、さまざまなステークホルダーの期待に応え、東洋インキグループの目標である「持続可能な成長」を実現するためには、グローバルな事業活動の担い手である「人材」が何よりも重要です。人権尊重の観点から、社員の多様なバックグラウンドを尊重し、多様性のある組織から生まれるイノベーションを活かして、組織の力を向上させることが不可欠です。

また、火災や爆発、化学物質の漏洩などの事故災害や職場での精神的な疾病は、社員とその家族にも大きな影響を与えてしまいます。

●基本的な考え方

東洋インキグループの経営哲学は「人間尊重の経営」です。「多様な個の夢の実現の尊重」を行動指針の一つに掲げ活動を行ってきました。グループの強みを生かして社会に貢献していくために、性別や国籍、年齢にかかわらず多様な人材が個々の能力を最大限に発揮し、やりがいと働きがいを持って働くことのできる職場づくりを目指しています。

また、安全と健康に配慮した職場環境を提供するため、労働災害の撲滅、安全教育、適正な労務管理、メンタルヘルスの向上などに取り組んでいます。育児や介護の支援、職場でのコミュニケーションの支援などにより、ワークライフ・バランスを推進します。



| 実行項目 | ありたい姿 |
|-----------------------------|--|
| 社員の満足につながる労働安全衛生の徹底と健康経営の推進 | 社員が働きやすい環境や風土づくりを推進することを通じて、事故や疾病を撲滅するとともに社員の満足度を高める。 |
| 組織の活性化に向けたダイバーシティ推進 | さまざまな社員の多様な側面を尊重し、それらを許容するだけでなく、組織力の最大化につながる関係や職場づくりにまでつなげる。 |
| グローバルな視野・能力を持つ人材の育成 | 社員の自主性を喚起しながら適切な教育を行い、組織力向上の観点からグローバルな事業に立ち向かう人材を育てる。 |

信頼を支える 堅実な企業基盤を築く



取り組みの 背景

2015年5月、上場企業が守るべき行動規範を示した企業統治の指針「コーポレートガバナンス・コード」が公表され、2017年3月には、コーポレート・ガバナンスの実務に関する指針「コーポレートガバナンス・システムに関する実務指針」(CGSガイドライン)が発表されました。

コーポレート・ガバナンスを強化していくことは、腐敗・汚職の防止や企業リスクの回避だけでなく、企業の収益性や中長期的な企業価値の向上と、持続的な成長を支えます。また、企業が持続可能な成長を続けていくためには、対話を通じて地域の懸念や期待を把握し、互いの関係性が好循環となるような企業経営の決定をしていく必要があります。

● 基本的な考え方

東洋インキグループは、理想的な企業統治の構築をCSR行動指針に掲げ、CSR統括委員会の各部会の活動を通してコンプライアンス、リスクマネジメントの取り組みを推進してきました。企業価値を継続的に向上させていくために、迅速な意思決定、明確な責任の所在など、健全で透明性の高い経営体制と、社外取締役の役割強化、内部統制システムの整備など、コーポレート・ガバナンス体制の充実に取り組んでいきます。

また、地域の課題解決や社会貢献活動を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、これらの取り組みと積極的な情報開示を通じて、社会からの信頼と企業価値の向上を目指しています。

実行項目

ありたい姿

コンプライアンスの徹底

企業活動の前提となるコンプライアンス意識を全社員が持ち、法令順守はもとより東洋インキグループビジネス行動基準にのっとり事業を正々堂々と行う。

腐敗・汚職の撲滅

全社員が正々堂々と事業を行うと同時に、企業活動に致命的な影響を与える腐敗・汚職を断固として撲滅する。

確実なリスクマネジメント、
災害対応の推進

冷静かつ確実なリスクマネジメント、災害対応を通じて事業の継続や企業価値の維持に努め、自社の経営を支える。

適時・適切かつ積極的な情報開示と
ステークホルダー・コミュニケーションの強化

適時・適切かつ積極的な情報開示に加え、あらゆる局面で接するステークホルダーと謙虚かつ積極的なコミュニケーションを行い、企業価値の向上につなげる。

事業を通じた地域社会発展への貢献

自社が持つ経営資源を、事業を实践する中で地域社会に振り向けることで、自社の発展と地域社会の発展の両立を達成する。

地域が抱える課題解決への貢献

事業に関わる地域社会と向き合い、地域が抱える問題に事業外でもアプローチすることで、課題の解決に貢献する。

非財務情報

主要なCSR関連指標



新卒女性採用比率(国内)

34%



平均残業時間(国内)

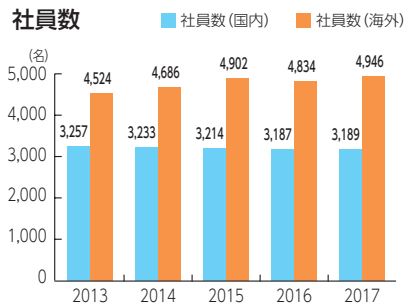
7.6時間/月



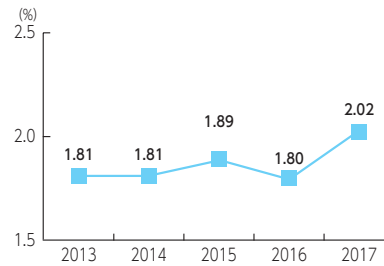
育児休業制度利用者数(国内)

45名

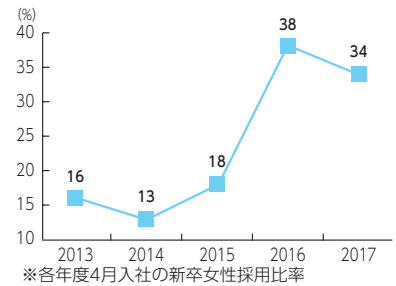
社員数



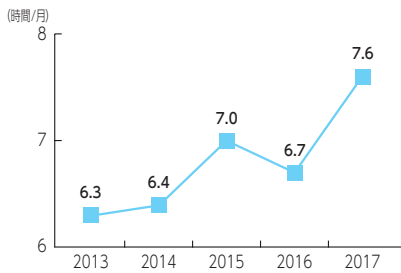
障がい者雇用率



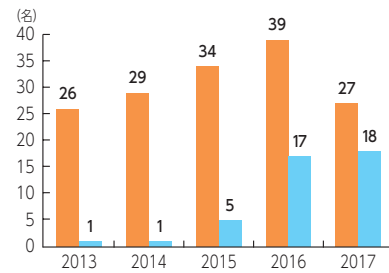
新卒女性採用比率



平均残業時間



育児休業制度利用者数



CO₂排出量(国内+海外)

162,808t



環境調和型製品売上高構成比

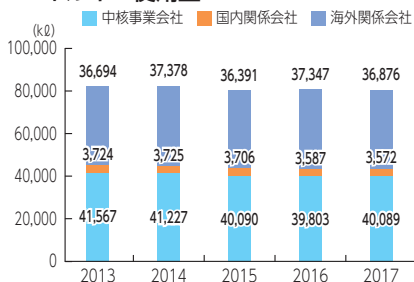
59.0%



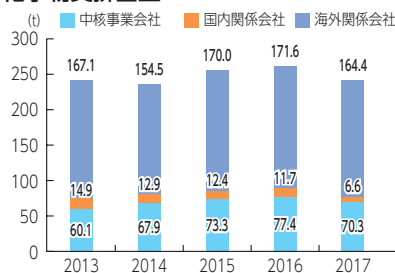
重大事故の発生

0件

エネルギー使用量



化学物質排出量



環境調和型製品売上高構成比

